能「天女の舞」児童が挑戦

笠岡の陶山小6年生 国民文化祭プレ企画 舞と謡習得 あす披露

舞と謡の仕上げのけいこに励む陶山小の6年生

伝統芸能への理解を深めようと笠岡市押撫の陶山小6年生が2学期に能を習い、22日に同小である地区文化祭で「天女の舞」を初披露する。来年秋に市内である国民文化祭「能・狂言フェスティバル」の事前企画。キリリとした舞と謡を鑑賞してもらおうと仕上げのけいこに打ち込んでいる。

（杉本喜信）

発表するのは、能の代表的演目「羽衣」の最高潮に演じられる仕舞。6年生全15人が着物、はかま姿で登場、4人が舞い、11人が謡う予定だ。月夜の空から宝を降らし、富士山を越えて消えていく天女を能特有の動きや節回しで表現する。

陶山小6年生は国民文化祭市実行委の能体験に応募。9月から総合的学習として毎週2時間練習してきた。指導は喜多流能楽堂（福山市）の大島文恵さん(31)たち3人が当たった。

子どもたちは独特の歩き方や扇の使い方、「ひらき」「さし」などと呼ばれる舞の所作などを次々に習得。教室で謡の録音を聞き、担任の中村ひとみ教諭と舞台げいこに励む。

舞を披露する森岡沙那さん(12)は「能らしく演じるため目線と扇の動きに気をつけたい」。謡の内山翔君(11)は「姿勢よく、おなかから声を出せるようになったところを見てほしい」と話す。

出演は午後2時。陶山公民館☎0865(66)1149。

back